

少年の塔の整備作業を行いました

9月9日(土)に「少年の塔」周辺の整備作業を行いました。今回は、中部地区の代議員及び会員、教育会常任委員、幹事、総勢50名の方々に作業をしていただきました。

皆様の作業のおかげで、周辺の草刈りや木の剪定が丁寧に行われ、大変きれいになりました。

今回の作業のお陰で今月23日(土)に予定されている少年の塔慰霊祭を気持ちよく迎えられます。ありがとうございました。



整備作業の様子

少年の塔の由来

公益社団法人上伊那教育会会長 原 浩範



この少年の塔整備作業や慰霊祭は、満蒙開拓青少年義勇軍について学ぶ平和教育研修会として位置づけられているものであり、教育会としては最も大切な事業の一つです。少年の塔の由来について、皆さんにぜひ知っていただきたいと思いますのでお話をさせていただきます。

太平洋戦争終結から、78年の歳月が流れようとしています。「満州は日本の生命線」と言われ、昭和7年(1932年)に満州国が誕生しました。計り知れない資源と、広大で未開の原野を開拓して「王道楽土」を築き、国の食糧不足を

補い、併せて満州の治安維持を図るという国の政策に添って、全国で満蒙開拓青少年義勇軍が10代半ばから後半の少年によって編制されました。国家総動員体制が強化されていく中、上伊那からの参加者は昭和12年から終戦までに600名を超えました。上伊那教育会も、上伊那義勇軍父兄会を組織するなど、国策として積極的に協力し、多くの教え子を満蒙開拓青少年義勇軍として満州に送り出しました。このことは、上伊那教育会にとって、戒めとして心に永く留め置くべき負の遺産となっています。

そして、昭和20年8月8日、対日戦線布告したソ連軍が次々に大陸を南下し、「王道楽土、五族協和」の夢は一瞬にして消え去り、関東軍の武装解除による大混乱の中、多くの満蒙開拓青少年義勇軍に参加した皆さんが、若き命を落としていくこととなりました。その数は上伊那で、91名となります。国策により学業を休み、厳しい勤労に動員された学徒たちも含め、若くして散っていった上伊那郡下に於ける物故者の霊を慰め、永

遠の平和を祈念するため、上伊那の市町村会をはじめ、上伊那教育会の他、各種団体の協力により、伊那谷の生んだ芸術家、瀬戸団治先生の大作「鋏を持ち彼方大陸より望郷の念にふける少年の像」を昭和36年4月、ここに建立しました。

台上に立つ少年の像は胸を張り、遙か遠くの何を見据えているのでしょうか。今、日本や世界の状況に目をやれば、いのちの尊さや平和に対する危機感を抱かざるを得ない出来事も少なくありません。私たちは、過ぎ去りし日々を思いを寄せると同時に、戦後78年を過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和を誓うことをこめて、毎年この少年の塔の環境を整備し、慰霊祭を行っています。

今年は、少年の塔慰霊祭を9月23日に計画しています。多くの皆様に参列いただき、平和について改めて考える機会としたいと思っています。

<平和教育研修事業>

満蒙開拓
青少年義勇軍

少年の塔慰霊祭



日時

令和5年9月23日(土)

午前8時～8時30分

<予備日>9月24日(日)

台風等の荒天時以外は、実施いたします。実施可否のご連絡は取し兼ねますので、ご自身でご判断ください。

会場

伊那公園内

少年の塔石碑前

もと伊那市営球場そば「東大社」の隣
伊那公園 住所 伊那市中央5528-1

内容

- 上伊那教育会長 追悼の言葉
- 満蒙開拓についてのお話
- 献花・焼香

※参加申込は、右記連絡先までお願いします。

主催：公益社団法人 上伊那教育会

連絡先

公益社団法人 上伊那教育会事務局

電話 0265-72-3416

FAX 0265-73-3758